

# お田植感謝の夕べ ～灯そう千枚田～



## 四谷の 千枚田だより



第190号



ササユリ



六月一日、鞍掛山麓千枚田保存会は地域住民の大きな協力を仰ぎ、「灯そう千枚田」を盛大に開催した。当日、早朝八時から「ああでもない、こうでもない」と言いながらも会場づくりやバザーの仕込みに精をだし、午後七時、打ち上げ花火を合図に小山舜二保存会長は「お田植感謝の夕べ」の総括として、一番嬉しいのは、この催しは十四年間、一度も雨に祟られず、開催できたことは地域の皆さんや参加者の千枚田・故郷を想う心をお天等様が微笑

んでいてくれたことに感謝。お田植感謝の夕べを通し、連谷地区が一体となり「むらづくり、絆づくり」の場となれば嬉しいし、期待もしたい。なお、この催しは皆さんの志、協力金から成り立っている。どうぞ、ご遠慮なく協力金箱をご利用ください。と、開会挨拶。催しは松下誠の軽快な司会で開始された。

また、柴田賢治郎地元議員は地元で活き、できることは何でもやる。と挨拶。毎年駆けつけて頂いている衆議院議員今枝宗一郎先生は棚田地域を後押しする棚田法案「棚田を核に地域振興」の立法のPPTとして頑張る。と挨拶を頂き、お田植感謝の夕べ、灯そう千枚田が開始された。(棚田法案については党政務調査会から(舜)がヒアリングを受けた経緯がある)。

会場では、千枚田名物「鳥長」の皮肝や焼きそば、焼き肉、飲み物、捕獲したイノシシのシシ汁を大判振る舞い、棚田っ娘は五平餅の販売等々で賑わい、千枚田の景観道には千五百本のロウソクが夕闇に幻想的に浮かび上がり、天空には十五発の花火が華を添え「こんげらぼう」を盛り上げた。

追伸 皆さんのご厚意が寄付・協力金箱に顕著に表れ、来年の開催目途が付きました。お礼申し上げます。

## 豊川リバーウォーク委員会

六月八日、豊川流域の居住者を中心に活動中のメンバーは公共交通機関を利用して流域の歴史文化地を訪れ、その一環として千枚田を訪れ、(舜)が対応した。



後日、事務局から「お話しを聞いただけで、美しい景色が日々の活動の上でできていることを理解し、大変な感動を得られたことにお礼申し上げます」と礼状が、またアンケートでは、①生態系のバランスの必然性と歴史の重さ、改めて再認識する。②千枚田の歴史の重みと時の流

れ、景観としての復活と維持の大変さ、それに向かう人。すべてに感謝。  
**田の草とり**

・六月六日、豊橋調理製菓専門学校は田の草取りと稲の生育調査、梅取りを行った。田植えから約一か月の稲の生長に生徒たちはびっくりの様子であった。

・六月二十二日、愛知東農協こども農学校(六十名)は稲の生育調査と田の草取りを行った。  
**企業が地元貢献**

六月八日、神星工業(株)鳳来工場従業員は四谷の千枚田から海老双田畑の会社までの沿道のゴミ拾いを行った。

声を掛けたら、「地域のおかげで会社が成り立っている。会社が地域に貢献することは当然の義務」と明快な回答に心が和んだ。ごくろうさまでした。

### ほっとニュース

#### ・ホタル舞う和(なごみ)の里

平成二十二年、生物多様性条約第十回締約国会議(COP10)愛知・名古屋市開催に一役を担った事を記念してホタルの舞う千枚田を視野に地道に活動を重ねて以来八年、年ごとに舞う数も増え、名物・名所がまた一つ増えつつある。



#### ・天然記念物ニホンカモシカ

千枚田周辺にはニホンジカの侵略で餌場を奪われたイワシカがひっそりと暮らしている。

この地域ではニホンカモシカを昔からイワシカと呼び、慣れ親しんでいる。

千枚田周辺を生活の拠点としているイワシカを棚田の百姓はシカ君と呼び、そんなに悪さをしないかと追い払うこともない。



#### ・モリアオガエルの産卵

平成十四年、施設整備と同時に造成したビオトープに親子観察会で移植したモリアオガエルが記念に植えたナンテンで今年も産卵した。



#### 今後の予定

七月五日、第九回中部環境先進五市サミット@新城 新城文化会館  
基調講演 「四谷の千枚田環境保全活動」小山舜二

行 令和元年七月一日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二